

山陽特殊製鋼株式会社

E S G 説明会 質疑応答(要旨)

開催日 2023年12月13日(水)
出席者 代表取締役社長 宮本 勝弘
取締役常務執行役員 高橋 幸三
常務執行役員経営企画部長 八並 敬之

Q. O v a k o の脱炭素への取り組みの現状と今後の展開について教えてほしい。

A. O v a k o のHofors (ホーフオーシュ) 工場において、2023年9月からカーボンフリー水素プラントが稼働をはじめた。O v a k o は北欧の安価でグリーンな電力や広い土地といった立地条件に恵まれており、水素活用の経済的なメリットがある。また先行的な事例であることでスウェーデン政府からの補助金も受領できている。O v a k o の財務体質も良いため、Hofors工場で得られた知見を活かし、O v a k o の他拠点への展開も検討している。O v a k o は常に脱炭素化の最先端を走っていきたいと考えている。

Q. ガバナンスに関し、社外取締役の経営への参画による好事例はあるか。親子の利益相反や、少数株主にとって不利な取引に対するモニタリングなどを行っているのか。

A. 監査等委員会設置会社となり、多彩なバックグラウンドを持った方々が当社の社外取締役を務めており、社外取締役の役割は少数株主利益を守ることとの観点から、常に「山陽特殊製鋼のメリットは何か」を問われている。また社外取締役との意見交換会や懇親会も開催し、取締役会以外の場でも、まだ検討段階の案件などについての議論を行っている。社外取締役は幅広い知識と経験を持っており、いつもよいアドバイスをもらっている。

親会社である日本製鉄との関係で何かをする際も、当社にとってのメリットがあることが大前提。親会社もこの点についてはよく理解しており、その前提に立って議論ができています。

Q. ぜひ社外取締役との座談会等も企画してほしい。

A. 当社とO v a k o の社外取締役が座談会を実施して、非常に有意義な議論ができた。今後も積極的に実施していきたい。

Q. O v a k o について、環境対応を武器に将来的により販売数量を増やせる可能性はないか。

A. 販売数量拡大に向けた活動は常にしている。O v a k o は高級品から中級品までを手掛けているが、この中でも中級品をさらに伸ばしていきたい。当社や日本製鉄から技術者を派遣し生産効率や製品の信頼性を上げるほか、設備投資も行い、数量を伸ばしていく。

O v a k o ではカーボンニュートラル鋼として全鋼材に対して気候サーチャージ(プレミアム)をすでに導入しており、これは他社との違いである。欧州はグリーンスチールに対する意識が非常に高い。欧州以外の地域ではまだそこまでの意識ではないため、カーボンニュートラルの価値は認めるが、価格が高いことへの反発があるのではないかと懸念する声も聞かれる。しかし、将来的には世界全体でグリーンスチールへの需要は高まっていくと見ている。

Q. 財務体質が良いとの説明だが、資本政策や株主還元に関して、親会社の意向があるため独立性を担保するのが難しいということはないか。

A. 財務体質については、足下のネットD/Eレシオが0.3倍程度であり、資金面での自由度はある。自己株式の取得は流通株式が減るため当社としては実行しにくいところがあるが、配当性向については中期計画見直しで35%に改定した。

Q. 買収等によりある程度の規模の企業をグループ傘下に入れた場合、親会社が子会社のコントロールに苦勞するケースも聞かすが、当社とOvakoの関係性はどうか。

A. 当社とOvakoは、非常に良好な関係性を築けている。その背景としては、①買収時からのメンバーが両社内に多くおり、相互理解の土壌があること、②当社や日本製鉄からOvakoに派遣した技術者のアドバイスによりOvakoの生産性が大きく向上し、日本の技術が認められたこと、③製造業に対し真摯であるなど、双方の国民性が似ており相性が良いこと、④経営層や管理部門も現地と頻繁にやりとりをして、それぞれの役割を果たしつつ、コントロールしすぎないこと、などがあると考えます。

Q. 成長機会の探索について、現時点で考えている範囲で教えてほしい。また、それが海外である場合、グローバル対応ができる人材の有無が制約にならないか。

A. 成長機会については、国内外ともに常に探索しているが、タイミングとチャンス次第。M&Aや設備投資などが考えられる。グローバル人材の育成については、人的資本戦略にもとづき進めているが、当社だけに限定せず、Ovakoをはじめとしたグループ全体でみると、国際的な事業の経験者が多くいる。そうした人材も活用できる。

Q. 今後は、ECOMAX®に代表される「工程省略」の観点が必要になってくると思うが、当社の強みや特長を教えてほしい。

A. 工程省略という観点では、当社の強みのひとつにユーザーと共同開発できる関係性を築けていることがある。ユーザーとともに研究開発を進めることで、顧客ニーズを把握し、それを素材で解決する方法を開発・提供できている。

また日本製鉄の子会社になったことで、日本製鉄、Ovakoと当社が共同で研究することが可能となり、日本製鉄が保有する研究施設を当社やOvakoも活用できる。これは当社およびOvakoにとって大きなメリットであり、この面でも3社シナジーを生み出せている。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。